

保育計画成果報告書

法人名等	
施設名	甲南立正保育園
報告者（役職）	齋藤 正善（園長）
住所・連絡先	山梨県甲府市下今井町 707
	☎ 055-241-9422 E-mail Kounan-risho-vfr@mvh.biglobe.ne.jp

○タイトル（保育計画）

遊具から芸術に触れる

○主な助成備品

乳幼児用遊具（kivi）

1. 保育計画策定の目的

当園では自然の多い山梨県という地域で、日々広い園庭を使用し体を動かしながらのびのびとした保育を行っている。体を動かして遊ぶという面では総合遊具やブランコ、太鼓橋、鉄棒、ジャングルジムといったポピュラーな遊具が多数置いてあり、日頃からこのような遊具を使用し元気いっぱいに遊んでいる。

その様な中で、今までと違った子ども達の美的感覚を育てるような遊具を購入したいと思い立ち、第一生命財団の助成金に申し込ませていただき、ジャクエツ社より販売している皆川明氏が手掛けたアート性の高い遊具「kivi」という遊具を購入させていただいた。単に体を動かす遊具とは違い、幼少期の子ども達の頃から無意識的に芸術へ触れることで、子ども達の美的感性を育んでいくこととした。

一般的な遊具やキャラクターなどの遊具とは違い、アートがそのまま遊具になったような遊具を設置することで、自然と子ども達の目を引き、将来的な子ども達の糧となれば嬉しく感じる。

また、自然の石（岩）のような見たいをしているので、普段では大人に止められてしまう岩の上り下りなどに似た感覚で遊べるのではないかと思った。

2. 具体的な実施内容

デザイナーである皆川明氏により、デザインが手掛けられた芸術的要素を兼ね備えた遊具を園庭内の目を引くところへと設置することで、子ども達が無意識的にデザイナーの造形美を身近に感じることができるようにした。

皆が見えるところへと設置することで、どの年齢児でも近くに寄って使用できるようにし、身近に芸術に触れることができている。遊具の下には造形美がより際立つように、土へと直に置くことはせず、園庭の一角に人工芝を設置しその上にこの遊具を置くこととした。

また、季節により遊具が熱を持ってしまう恐れがあるため、寒い季節は日向へ置き、暑い季節は日陰に置くなどの配慮をし、どの季節でも子ども達が身近に使用できるようにしていった。真夏などに使用する時にはテントを設置し、その下で日陰の中にて遊べるような工夫を行っていった。

3. その成果と評価

低くて丸みのあるデザイン性が高い遊具で、子ども達が安全かつ芸術に触れながら遊ぶことができている。設置した後は乳児の子ども達は遊具の周りをぐるぐると伝い歩きして遊んだり、少し登っては滑り降りたりして遊んでおり、幼児の子ども達は低い滑り台のように遊んだり、四方の傾斜の違いを楽しみながら滑り降りて遊んでいた。また、見た目が河原にあるツルツルの石（岩）のような見た目から、普段住む平地では遊ぶことができない岩登りをしているような感覚もあるのだろうと感じる。

保護者からの声としては「美術館においてありそうですね」や「どこか誰かの有名な遊具なのですか」「素敵ですね」などの声も聞かれ、見る人が見ると造形美を感じるのだなと実感するところもあった。

子ども達がこの遊具に接し今現在美的センスを感じているかはさておき、自然にある河原の石や岩のような独特な形状をしていることで、自然の温かみも感じながら無意識に芸術感覚が育てられていると感じる。

設置してから月日は経過しているが、子ども達が園庭で遊んでいる様子などを見ていると、いまだにどの年齢児も変わらず楽しそうにこの遊具で遊んでおり、子ども達の人気も高いままである。

また、職員目線での話をさせてもらおうと、サイズもコンパクトで、重量も 60 kgほどと大人 2 名ほどで持ち運びが可能であり、場所を変更したり、行事の際にも端に寄せたりすることが容易で、大型遊具とは違いかなり利点もあると感じる。この遊具を設置後に購入しなければ良かったと後悔することもなく、むしろこの遊具で良かったなと思っている。

使ってみて感じたことは、例えば設置場所が限られる小規模保育所や園庭の狭い保育所でも設置しやすいと感じた。また室内に置いて室内遊具として使用しても良いのではないかと感じる。コンパクトでデザイン性もあるので小さな園庭や、部屋の片隅になど設置もできる。

たくさん遊具がある園においても園庭に設置する際は、石（岩）のような見た目をしているので、どのような園庭や園舎にも邪魔にならず、外観を損ねることもないであろう。

体を動かすという観点でみると、高さが無いぶん元気な子ども達にはすこし物足りなさはあるかと思うが、高い遊具が苦手な子ども達や、遊具で遊ぶ最初の入りとして安全に遊べるという観点で見たら、とてもすぐれた遊具なのではないかと思う。職員も安全という観点で乳児の担当職員はこの遊具で子ども達と楽しく遊んでいる姿が見られている。

まずは安全第一、丸みのあるデザインで引っ掛かりなども無いため安心して遊ぶこともでき、設置以降に子どものケガなどに繋がったケースも見られていない。

4. 今後の課題と展望

自然の多い地域性の中でも田舎ゆえに車移動が主たる移動手段であり、昨今様々な事件が起こる中で小さな子どもだけで近所の公園で遊ぶことも心配される時代へと突入した。また、夫婦共働き世代も増加する中で、子どもと関わる時間も減り、家庭内においても子ども達が興味を示すものは、スマートフォンやゲーム、YouTube や、ネット環境を通じたサブスクリプションなどへと様変わりしてきている。親もこれらの便利になり過ぎた時代に甘えてしまっている現実もある。

このような背景の中、子ども達の体力低下という面では日本中で深刻な問題となりつつある。

そんな時代の中でも親が安心安全に子どもを預けられ、一日の大半を過ごすこととなる保育所、認定こども園、子どもを預かる保育施設は、子どもの生活や教育、育ち、体力の向上において最も重要な役割を果たしていることであろう。

今回、当園は体を動かす目的の他にも、体を動かしながらもアートに触れられる遊具を購入した。予算の関係上 1 つのみの購入とはなったが、この遊具に子ども達が触れることを通して、子ども達が芸術的センス・美的センスを自然と磨き、将来色々な事に興味を持てる子どもへと成長して貰えたら良いと思う。

この遊具で遊んだ子ども達の中からアートに関わる仕事をやる子が出てきた時に、「あなたはこんな遊具で遊んでいたのだよ」と言える日が来ることを、個人的には楽しみにしている。

さて、遊具購入の助成金という機会をいただいた中で、当園では初めてアート性を持った遊具を購入してみた。想像以上に子ども達の反応も良く、楽しく使用している姿を見て、余裕ができたならまたアート性のある遊具の買い足しするのも悪くないと感じた。

ここ数年の物価高騰の時代の折、限られた予算で運営を迫られる我々保育事業者であるが、今回は一般財団法人第一生命財団からの助成金で子ども達に素敵な遊具を購入し、使用することができ、誠に感謝するところであります。今後も子ども達のためにこのような活動を是非とも続けて貰えたら嬉しい限りです。この度は誠にありがとうございました。

以上